

新しい肝炎総合対策の推進

厚生労働省

2009年4月13日 ~ 4月19日

内容
画面推移

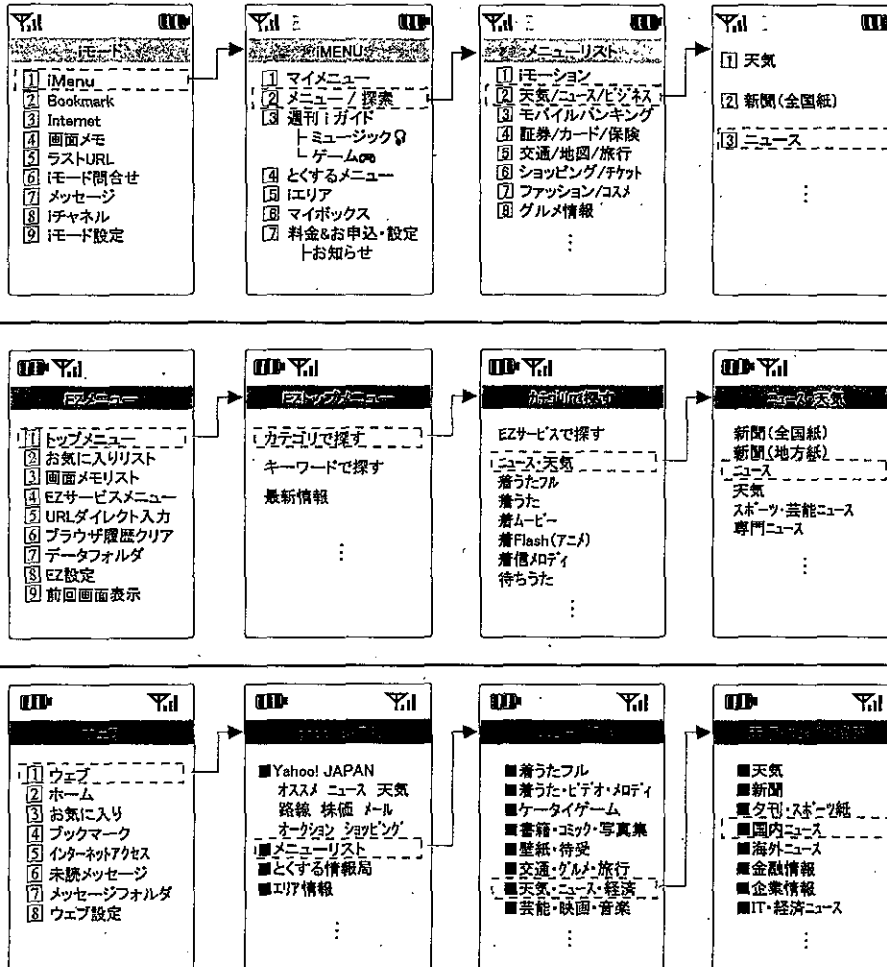
【備考】

肝炎の検査、もう受けましたか？



肝炎は早期発見・早期治療で肝がんを防ぐことが可能です。検査は最寄りの保健所などで受けられ(原則無料)、短時間で簡単に終了。一生に一度は検査を受けてみましょう！
(厚生労働省)

The Newsへのアクセス方法



The News

当サイトのサービスは無料(通信料を除く)にてご利用いただけます。ユーザー登録からお進みください。提供: ニュース・サービス・センター
◆ユーザー登録※
1 進む

※i-modeでは、「マイメニュー登録」という表記になっております。

はじまり

日本では年間約3万5000人の方が肝がんにかかり、死亡しています。そのほかには、慢性C型肝炎ウイルスの感染者です。また、日本ではC型肝炎ウイルスの感染、感染後毎年合わせて3000人以上の方も発がんし、肝炎は国内最大の感染疾患の一つであることが最近の研究で明らかです。

肝炎は、自覚症状が現れにくい「体当たり」の病気です。重症化してしまえば、治療が難しくなります。一方で、症状が軽いうちから治療を受ければ、肝臓を肝がんとしたままに保ち、病気を防いだり、進行を遅くすることも可能です。

肝臓は、症状がなくても「一生に1回は」肝炎ウイルス検査を毎年1回、感染を早期発見して適切な治療を受けることが、非常に重要です。また、厚生労働省では、検査がむずかしい状態の方の負担を軽減するために、肝炎ウイルス検査に対する医療費助成、検体の保送、治療体制の整備など、総合的な対策を実施している取り組みです。

肝炎は、多くの方が罹患している身近な病気ですが、多くの国民の皆様には正しい知識が持たれていません。地域や職種によっては肝炎ウイルスの感染を予防することも必要です。患者や感染者の方々の差別や偏見を防止することも、肝臓週間です。

肝臓週間とは

肝炎を予防し、正しい知識を普及させるための

要推を知っていたいたため、毎年5月第4週を「肝臓週間」と定め、集中的に普及啓発活動を実施しています。今年は、5月16日(日)から24日(日)までの一週間とさせていただきます。

この間、全国各地で、ウイルス肝炎研究財団をはじめ、国、自治体などが、ポスターやリーフレットなどを活用して広報活動、市民公開講座



肝臓週間について

平成21年5月18~24日

肝炎は、早期発見・早期治療

健康局疾病対策課肝炎対策推進室

や街頭キャンペーン等のイベント開催などを実施しています。

肝臓週間を通じて知っていただきたい、主な取組について

●肝炎を正しく理解していただくための普及啓発活動
—ウイルス肝炎は、簡単にうつりませぬ肝炎とは

肝炎とは「肝臓に炎症が起きている状態」であり、ウイルス性肝炎、薬物性肝炎、アルコール性肝炎、自己免疫性肝炎などに分類されます。日本では、肝炎の大半が「ウイルス性肝炎」であり、主な肝炎ウイルスは、A、B、C、D、E型の5種類です。

中でも、B型の慢性肝炎ウイルスは、肝臓に持続的に慢性肝炎になる可能性が高く、肝臓変形に進行するおそれがあります。

感染拡大の予防のために

B型肝炎ウイルスは、血液を介して、人から人に感染します。他人の血液に安易に触れる

ポイント

- ①肝炎ウイルスは、正しい知識を持って、常識的な注意事項を守れば、日常生活で感染することは、まずありません。
- ②肝炎ウイルス検査は、全国どこでも「無料」で受けられます。
- ③肝炎は、「早期発見・早期治療」によって、将来の肝硬変・肝がんを防ぐことが可能です。

おまじ

※詳しくは、最寄りの自治体・保健所の窓口が、各自治体のホームページで御確認ください。

おまじ

毎年5月第4週(18日～24日)の期間を「肝臓週間」として、各種の普及啓発活動が全国各地で展開的に行われます。

また、この期間中は、肝炎ウイルスの検査を受けやすくしたり、肝炎ウイルスに対する知識を深めたりする取り組みが、全国的に行われます。

厚生労働省では、今後とも、国民の皆様へ、感染予防や検査・治療の重要性を肝炎に関する正しい情報を提供してまいります。一人ひとりが、自分の健康を守るために、大切な肝炎検査を定期的に受けていただくことを、肝炎総合対策の推進の一環として、強く呼びかけます。

ホームページ

- 肝炎対策推進室(総務課)
- http://www.mhlw.go.jp/dungei/kankou/kekaku/kansenshouju9/index.html
- 肝炎対策センター
- http://www.mhlw.go.jp/center/index.html
- ウイルス肝炎対策財団
- http://www.vhri.or.jp/

治療に関するお問い合わせは、肝炎総合対策推進室 相談窓口

03-5466-6000(平日9時～16時)

肝臓は、多くの人が持っている血液が、肝臓の細胞の中で作り出されています。この血液には、栄養素や酸素、そして、肝臓が作り出した胆汁酸が含まれています。胆汁酸は、脂肪を分解して、吸収しやすくするために必要です。また、肝臓は、血液中のコレステロールや糖質を調節する役割も果たしています。肝臓は、私たちの健康にとって非常に重要な臓器です。

肝臓は、多くの人が持っている血液が、肝臓の細胞の中で作り出されています。この血液には、栄養素や酸素、そして、肝臓が作り出した胆汁酸が含まれています。胆汁酸は、脂肪を分解して、吸収しやすくするために必要です。また、肝臓は、血液中のコレステロールや糖質を調節する役割も果たしています。肝臓は、私たちの健康にとって非常に重要な臓器です。



このキャラクターは、厚生労働省の肝炎総合対策におけるマスコットで、頭の部分は、肝臓のかたちをイメージしています。

このキャラクターを見たら、「肝炎についての広報だ!」と思っていただけるよう、これからも、様々な機会に登場させていきたいと考えています。既に、一部の自治体や企業でお使いいただけていますが、肝炎についての広報のシンボルとして、さらに幅広く使っていただければ幸いです。(使用してみたい、と思われた方は、厚生労働省肝炎対策推進室までお問い合わせください)

⑥医療費の自己負担軽減制度等のための所得階区分決定の際に、例外的な取り扱いを認

お役立ち記事

平成21年5月掲載

肝炎に効果的なインターフェロン治療 利用しやすくするために医療費助成制度が変わりました

日本国内での患者・感染者数が300万人を超えると推定されているB型・C型肝炎ウイルス性肝炎。放っておけば肝硬変や肝がんなどに進行する危険がありますが、早期発見と適切な治療で重い病気への進行を防ぐことができます。そのため、厚生労働省は平成20年度から「新たな肝炎総合対策」を推進し、全国での肝炎ウイルスの無料検査体制を整えています。また、肝炎治療に効果的なインターフェロン治療への医療費助成を行っています。

肝炎は早期発見と適切な治療が重要

B型肝炎・C型肝炎などのウイルス性肝炎は、血液などを介して、B型肝炎ウイルスやC型肝炎ウイルスに感染することによって発症する病気です。日本国内には、肝炎ウイルスの感染経路が判明する以前に、輸血などによって、B型肝炎やC型肝炎に感染した危険のある人が多くいると推定されています。

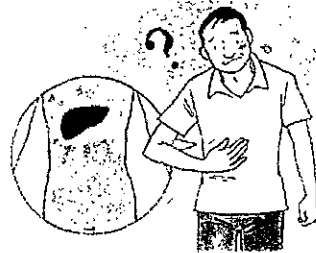
肝臓は沈黙の臓器とも言われており、肝炎ウイルスに感染しても、これといった自覚症状が現れないことが多いのが特徴です。そのため、長い間、感染に気が付かないまま病気が進行し、症状が現れたときには、肝硬変や肝がんなどの重い病気に至っているケースも少なくありません。

しかし、B型肝炎・C型肝炎は、ウイルスに感染しても、初期の段階で発見し、適切な治療を受けることで、根治することが可能な病気です。

B型肝炎・C型肝炎を克服するためにも、「肝炎ウイルス検査」で早期に病気を発見し、必要な治療を受けられるようにすることが大事です。

肝炎治療に効果的なインターフェロン治療

肝炎ウイルスに感染しても、ずっと症状が出ないまま終わる場合もあり、すぐに治療が必要ではない場合もあります。また、治療は症状と体の状態に合わせて選びます。



さまざまな治療方法の中で、ウイルス性肝炎を根治することができるものとして期待されているのが「インターフェロン治療」です。インターフェロンは、免疫系に働き掛け、肝炎ウイルスの増殖を抑え、肝炎ウイルスを破壊する効果があります。

インターフェロンの治療効果は患者さんによって違い、強い副作用を伴うことがあるため、必ずしも、すべての患者さんに効果のある治療方法というわけではありません。しかし、遺伝子のタイプにもよりますが、B型肝炎では約3割、C型肝炎では約5割～9割の人に、治療効果が期待できると言われていています。

このように、高い治療効果が期待されるインターフェロン治療ですが、この治療を受けるための医療費も高額であり、患者さんの医療費の自己負担額は年間約80万円、1か月当たり約7万円に上ります。

インターフェロン治療には医療費を助成

そこで、国と都道府県では、患者さんの医療費の負担を軽くし、この治療を受けやすくするため、平成20年度から、保険の適用となるB型・C型肝炎のインターフェロン治療に対して、医療費の助成を行っています。

この助成制度は、B型・C型肝炎のインターフェロン治療を受けている患者さんの世帯当たりの市町村民税額に応じて、月額自己負担限度額を1万円、3万円、5万円に軽減するものです。医療費が自己負担限度額を超えた分は国と都道府県が負担しますので、患者さんは自己負担限度額以上負担する必要はありません。

また、自己負担限度額算定のための世帯当たりの市町村民税額は、原則として、住民票上の「世帯」全員の合計額とされています。

ただし、平成21年4月からは、税制や医療保険上の扶養関係がないと認められる場合には、市町村民税課税年額の合算対象から除外(配偶者は除外できません)できるようになりました。これによって、老親世帯と子ども世帯が同居している世帯などの場合、これまで生活実態に比べて高い自己負担額となっていたのが、生活実態に即して医療費助成の恩恵を受けられるようになります。

階層	世帯当たりの市町村民税課税年額	自己負担限度額(月当たり)
A	65,000円未満	10,000円
B	65,000円以上～235,000円未満	30,000円
C	235,000円以上	50,000円

一定の要件を満たす人は助成期間の延長も

また、インターフェロン治療の医療費助成を受けられる期間は、原則として、1年以内とされています。これまでは、助成期間の延長は認められませんでした。平成21年4月からは、一定の要件を満たし、インターフェロン治療で72週投与が必要な患者さんには、助成期間の延長が認めら

れることになりました。

このように、平成21年4月からの制度の運用変更により、インターフェロン治療の医療費助成は、多くの患者さんにとって、利用しやすいものとなっています。B型肝炎、C型肝炎の治療のためにインターフェロン治療を受けている方、これから受けようとしている方は、ぜひ、この医療費助成をご利用ください。

このインターフェロン治療の医療費助成を受けるためには、お住まいの都道府県への申請が必要です。詳しくは、お住まいの都道府県窓口にお問い合わせください。

ウイルス性肝炎の検査は無料で受けられます。

B型肝炎・C型肝炎の検査は、血液検査で行うことができます。多くの市区町村・保健所では、無料で肝炎ウイルス検査を受けられるようになっています。また、病院や診療所、会社や自治体の健康診断でも検査を受けられるところが多くなっています。

早期に病気を発見できれば、適切な治療を行うことができますので、積極的に検査を受けましょう。ウイルス性肝炎について不安のある方は、かかりつけ医や保健所などにご相談ください。



<用語解説>

B型肝炎

B型肝炎ウイルス(HBV)に感染することによって発症する肝炎。HBVは血液や体液を介して感染します。感染の原因は、輸血や注射針の使い回し、性行為による感染やHBVを体内にもっている母親から生まれた子どもへの母子感染などです。日本のB型肝炎の患者・感染者は110万人～140万人いると推定されています。

C型肝炎

C型肝炎ウイルス(HCV)に感染することによって発症する肝炎。C型肝炎ウイルスの患者や感染者の血液に接することによって感染します。日本のC型肝炎の患者・感染者は200万人～240万人いると推定されています。また肝硬変や肝がんに移行する率が高く、現在、肝がん患者の約70%はC型肝炎が原因となっています。

インターフェロン

免疫系や炎症の調節などに作用して効果を発揮する薬剤。インターフェロン治療は、ウイルス性肝炎を根治できる治療法であり、遺伝子のタイプにもよりますが、B型肝炎では約3割、C型肝炎では約5割～9割の人が治療効果を期待できます。ただし、強い副作用(発熱や頭痛、筋肉痛、脱毛、めまい、不眠など)を伴うことが多いため、専門の医師とよく相談することが必要です。

平成21年5月放送分

栗村智の HAPPY! ニッポン!

バックナンバー

放送日：平成21年5月23日(土)
平成21年5月24日(日)
放送局によって日時が違います

テーマ：犯罪利用預金口座等に係る資金による被害回復分配の支払い等に関する法律

内容：去年1年間の振り込み詐欺の被害総額は約276億円。依然として深刻化に歯止めがかかっていないのが現実です。そんな中、去年6月に施行されたのが、「犯罪利用預金口座等に係る資金による被害回復分配金の支払等に関する法律」、通称「振込詐欺救済法」。これは振り込み詐欺などによって、金融機関の口座に振込まれ、引き出されずに残っている犯罪被害資金を、被害に遭われた方々に返還するルールを定めたもので、被害者の方々を救済するための法律です。番組ではこの「振込詐欺救済法」の内容や手続きについて詳しく解説するとともに、後を絶たない「振り込み詐欺」の現状についてお伝えしていきます。

放送日：平成21年5月16日(土)
平成21年5月17日(日)
放送局によって日時が違います

テーマ：第5回太平洋・島サミット

内容：今月22日(金)・23日(土)の2日間、北海道のトマムで「第5回太平洋・島サミット」が開催されます。このサミットは、太平洋の島国・地域と日本との協力関係を強化し、それぞれの国が直面している様々な問題について首脳レベルで意見交換を行なうものです。1997年以降、3年に1度、実施され、今回が第5回目。今回は太平洋の環境問題や安全保障、また人的交流などを中心に話し合いが行なわれます。番組ではこの「太平洋・島サミット」の意義や目的をお伝えするとともに、ツバル、サモア、トンガ、キリバスといった太平洋の島国や地域の現状について紹介します。

放送日：平成21年5月9日(土)
平成21年5月10日(日)
放送局によって日時が違います

テーマ：雇用保険制度の一部改正

内容：厳しい経済状況が続く現在の日本、企業の倒産や雇止め・解雇等の雇用失業情勢は、非常に厳しい局面を迎えています。現在、政府では非正規労働者や離職者に対する様々な雇用対策を講じていますが、その一環として今年4月から施行されているのが「雇用保険法等の一部改正」。その内容は非正規労働者に対するセーフティネット(雇用保険の適用範囲の拡大、再就職が困難な方に対する給付日数の延長等々)機能の強化や雇用保険料

毎年5月の第4週は「肝臓週間」。今年は、あさって1

8日(月)から24日(日)までの1週間となっています。

期間中、厚生労働省や都道府県、市町村、ウイルス肝炎研究財団などの様々な主体が、講演会や市民講座の開催など、肝臓の病気についての正しい知識と感染予防の重要性を知っていただくための活動を各地で展開します。国民の皆様には、是非、この機会に、肝臓の病気について関心を持っていただき、知識を深めていただきたいと思います。

「肝炎は早期発見・早期治療」。厚生労働省では、国民の皆様にも、感染の予防、検査や治療の重要性など、肝炎についての正しい情報を知っていただき、また、一人でも多くの患者・感染者の方々が、必要な時期に適切な治療を受けていただけるよう、今後とも肝炎対策を総合的に推進していきます。

平成21年5月15日
健康局疾病対策課肝炎対策推進室
(担当・内線) 今別府 (2943)
佐藤 (2949)
(電 話) 03(5253)1111

報道関係者 各位

肝臓週間について

～肝炎は、早期発見・早期治療～

肝疾患についての正しい知識を普及し、感染予防の重要性についての認識を高めるため、毎年5月の第4週を「肝臓週間」と定めており、今年は、5月18日(月)から24日(日)までの1週間となっています。

この期間、厚生労働省、(財)ウイルス肝炎研究財団及び地方公共団体等においては、重点的な普及啓発活動を実施することとしていますので、お知らせいたします。

肝臓週間について

～肝炎は、早期発見・早期治療～

肝疾患についての正しい知識を普及し、感染予防の重要性についての認識を高めるため、毎年5月の第4週を「肝臓週間」と定めており、今年は、5月18日(月)から24日(日)までの1週間となっています。

この期間、厚生労働省、(財)ウイルス肝炎研究財団及び地方公共団体等においては、次のような普及啓発活動を、重点的に実施することとしています。

記

1. 国の取組

- 厚生労働省広報誌(厚生労働5月号)での紹介 **【別添1】**
- インターフェロン治療体験記「肝炎のお話」**【別添2】**の作成、配布
- 厚生労働省ホームページでの紹介
- 政府広報(ラジオ、政府広報オンライン)での紹介

※ 詳しくは、厚生労働省健康局疾病対策課肝炎対策推進室へお問い合わせください。

2. (財)ウイルス肝炎研究財団の取組

- パネルディスカッションの開催 **【別添3】**
「肝炎と肝がんを撲滅するために」
 - ・ 日 時 平成21年5月23日(土) 14時～17時30分
 - ・ 場 所 長野県松本文化会館
 - ・ 定 員 300名(入場無料)

※ 詳しくは、(財)ウイルス肝炎研究財団(電話03-3813-4077)へお問い合わせください。

3. 地方公共団体の取組

- ポスター、リーフレットによる広報
- 電光掲示板、ラジオ等のメディアを活用した広報
- 市民公開講座の開催 など

※ 詳しくは、各都道府県、保健所設置市及び特別区の肝炎対策担当窓口へお問い合わせください。

〔別添1〕

肝臓週間について

平成21年5月18～24日

肝炎は、早期発見・早期治療



健康局疾病対策課肝炎対策推進室

はじめに

日本では、年間、約3万5000人の方が肝がんによって、死亡しています。そのほとんどは、B型・C型肝炎ウイルスの感染者です。また、B型・C型肝炎ウイルスの患者・感染者数は、合わせて300万人以上とも推定され、肝炎は、国内最大の感染症と言われるほど「身近な」病気なのです。

肝炎は、自覚症状が現れにくく、「体がだるい」と気付いてからでは、重症化していることも多くあります。一方で、症状が軽いうちに治療をすることで、肝硬変・肝がんといった重篤な病気を防いだり・進行を遅らせることが可能です。

ですから、症状がなくても、一生に一度は、肝炎ウイルス検査を受けて、感染を早期発見し、適切な治療を受けることが、非常に重要です。

そこで、厚生労働省では、検査から治療まで継ぎ目のない仕組みを構築するためインターフェロン治療に対する医療費助成、検査の促進、治療体制の整備など、総合的な対策を実施しているところです。

肝炎は、多くの方が罹患している身近な病気ですから、すべての国民の皆様には正しい知識を持っていただき、地域や職場における肝炎ウイルスの感染を予防することはもちろん、患者や感染者の方々への差別や偏見を防止することが、非常に重要です。

肝臓週間とは

肝疾患についての正しい知識と感染予防の重要性を知っていただくため、毎年5月第4週を「肝臓週間」と定め、重点的に普及啓発活動を実施しています。今年は、5月18日（月）から24日（日）までの1週間となっています。

この間、全国各地で、ウイルス肝炎研究財団をはじめ、国、自治体などが、ポスターやリーフレットなどを使った広報活動、市民公開講座や街頭キャンペーン等のイベント開催などを実施しています。

肝臓週間を通じて知っていただきたい、主な取組について

- 肝炎を正しく理解していただくための普及啓発活動
ーウイルス性肝炎は、簡単にはうつりません

肝炎とは

肝炎とは「肝臓に炎症が起きている状態」であり、ウイルス性肝炎、薬剤性肝炎、アルコール性肝炎、自己免疫性肝炎などに分類されます。

日本では、肝炎の大半が「ウイルス性肝炎」であり、主な肝炎ウイルスは、A、B、C、D、E型の5種類です。

中でも、B型・C型肝炎ウイルスは、肝臓にすみついて、慢性肝炎になる可能性が高く、肝硬変・肝がんに行進することもあります。

感染拡大の予防のために

B・C型肝炎ウイルスは、血液を介して、人から人へと感染します。他人の血液に安易に触れない・カミソリなどの血液がつく可能性のあるものを共用しないなど、常識的な注意事項を守っていれば、日常生活でうつることはまずあり得ません。(くしゃみ・せき・抱擁・食べ物・飲み物・食器やコップの共用などでは感染しません。)

ポイント

- ① 肝炎ウイルスは、正しい知識を持って、常識的な注意事項を守れば、日常生活で感染することは、まずあり得ません。
- ② 肝炎ウイルス検査は、全国どこでも「無料」で受けられます。
- ③ 肝炎は、「早期発見・早期治療」によって、将来の肝硬変・肝がんを防ぐことが可能です。

もっと深く、知りたい方のために

肝炎について、より深く知っていただくために、厚生労働省のホームページでは、ウイルス性肝炎についてのQ&Aを始め、いろいろな情報を掲載しています。また、肝炎情報センター、ウイルス肝炎研究財団、自治体のホームページにおいても、地域での肝疾患診療体制や治療法などの情報を掲載していますので、是非御覧ください。

●肝炎ウイルス検査の実施

－肝炎ウイルス検査は「無料」で受けられます

肝炎ウイルス検査は、全国134の自治体（都道府県・保健所設置市・特別区）で実施しており、保健所又は委託医療機関で、「無料」で受けられるようになっています。

検査自体は採血のみですから、短時間で簡単に終わります。検査を受けたことのない方は、一生に一度は、この検査を受けてみてください。

なお、検査を受けられる場所や日時などは、自治体によって異なりますので、詳しくは、最寄りの自治体・保健所の窓口へ直接お聞きいただくか、各自治体のホームページで御確認ください。

●医療費助成制度について

－「早期治療」が肝がんを防ぎます

B型・C型ウイルス性肝炎は、インターフェロン治療が奏効すれば、将来の肝硬変・肝がんを防ぐことが可能です。

肝炎の治療法は、近年急速に進歩しており、従来根治が難しかったタイプの肝炎でも最新のインターフェロン治療により、多くの方が根治に至るようになりました。

そこで、早期治療を推進するため、医療費が高額なインターフェロン治療に対する医療費助成を実施しています。本年度からは、より利用しやすい制度とするため、次の2点について、運用変更を行ったところです。

- ① 一定の条件を満たし、延長投与（72週投与）が必要な方については、助成期間の延長を認めること、
- ② 医療費の自己負担限度額決定のための所得階層区分認定の際に、例外的な取扱いを認めること。

※ 詳しくは、最寄りの自治体・保健所の窓口か、各自治体のホームページで御確認ください。

おわりに

御紹介したように、肝臓週間は、毎年5月の第4週となっており、この期間を中心として、各種の普及啓発活動などが全国各地で重点的に実施されています。

皆様も、この一週間は、肝炎についての情報を、注意して探してみてください。そして、シンポジウムなどに参加いただき、肝炎について、少しでも知識を深めていただければ幸いです。

厚生労働省としては、今後とも、国民の皆様にも、感染予防や検査・治療の重要性など肝炎についての正しい情報を知っていただき、一人でも多くの患者・感染者の方々

が、必要な時期に、適切な治療を受けられるよう、今後とも、肝炎総合対策の推進に努めていきたいと考えています。

ホームページのURL

●厚生労働省肝炎対策推進室（新しい肝炎総合対策の推進）

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou09/index.html>

●肝炎情報センター

<http://www.imcj.go.jp/center/index.html>

●ウイルス肝炎研究財団

<http://www.vhfi.or.jp/>

治療に関することなど、肝疾患の相談受付窓口

03-5689-8202（平日10時～16時）

マスコットキャラクターについて

このキャラクターは、厚生労働省の肝炎総合対策におけるマスコットで、頭の部分は、肝臓のかたちをイメージしています。

このキャラクターを見たら、「肝炎についての広報だ!」と思っていただけるよう、これからも、様々な機会に登場させていきたいと考えています。

既に、一部の自治体や企業でお使いいただいておりますが、肝炎についての広報のシンボルとして、さらに幅広く使っていただければ幸いです。（使用してみたい、と思われた方は、厚生労働省肝炎対策推進室までお問い合わせください。）



※ 厚生労働省広報誌「厚生労働」5月号より転載

ウイルス性肝炎について

Q1 ウイルス性肝炎とは？

ウイルス性肝炎とは、肝炎ウイルスに感染して肝臓の細胞が壊れていく病気です。この病気になる、徐々に肝臓の機能が失われていき、ついには肝硬変や肝がんに至ることもあります。B型及びC型肝炎ウイルスの患者、感染者は合わせて300万人を超えていると推定され、国内最大の感染症とされています。

Q2 肝臓は“沈黙の臓器”

肝炎になっても、肝臓はなかなかSOSを出しません。「体がだるい」と気付くころには、かなりの重症になってしまっています。でも大丈夫。肝炎ウイルスは、検査でわかります。肝炎ウイルスに感染していても、適切な健康管理・治療で、肝炎から肝硬変や肝がんに悪化するのを予防することが可能です。
※肝炎のほとんどは、肝炎ウイルスによって起こる「ウイルス性肝炎」です。



Q1 検査を受けるには？

【どんな検査？】
肝炎ウイルスに感染しているかどうかは、採血検査で判断します。短時間で済み、また、数週間後検査結果をお知らせできます。※感染後は3ヶ月ほどたないと、陽性にならないこともあります。
【どこで受けられるの？】
検査を受ける機会は、以下のようなものがあります。
● お住まいの市町村での地域検診 ● お住まいの都道府県等の保健所での検診
※実施日程や費用などは、それぞれの実施主体によって異なりますので、別途お問い合わせください。



Q2 感染が分かったら？

肝炎ウイルスに感染していたとして、肝臓の状態は人によってまちまちです。まずは、専門医に相談してみましょう。
【主な治療方法(インターフェロン治療)について】
● インターフェロンは、免疫系・炎症の調節等に作用して効果を発揮する薬剤で、肝炎ウイルスの増殖を抑える効果があります。
● B型肝炎の場合は約3割、C型肝炎の場合は約5〜9割の人が治療効果を期待できます。
※治療効果は、遺伝子型、ウイルス量などによって異なります。



Q3 インターフェロン治療に対する医療費助成制度とは？

国と都道府県では、肝炎の有力な治療法であるインターフェロン治療について、あなたの負担額を軽減する助成を行っています。助成の対象となるのはB型又はC型肝炎のインターフェロン治療です。あなたの世帯の所得に応じて、月当たりの医療費を軽減します。詳しくはお近くの保健所にお問い合わせ下さい。

インターフェロン治療時の副作用による傷病金に該当する場合は、医療費助成の対象となります。

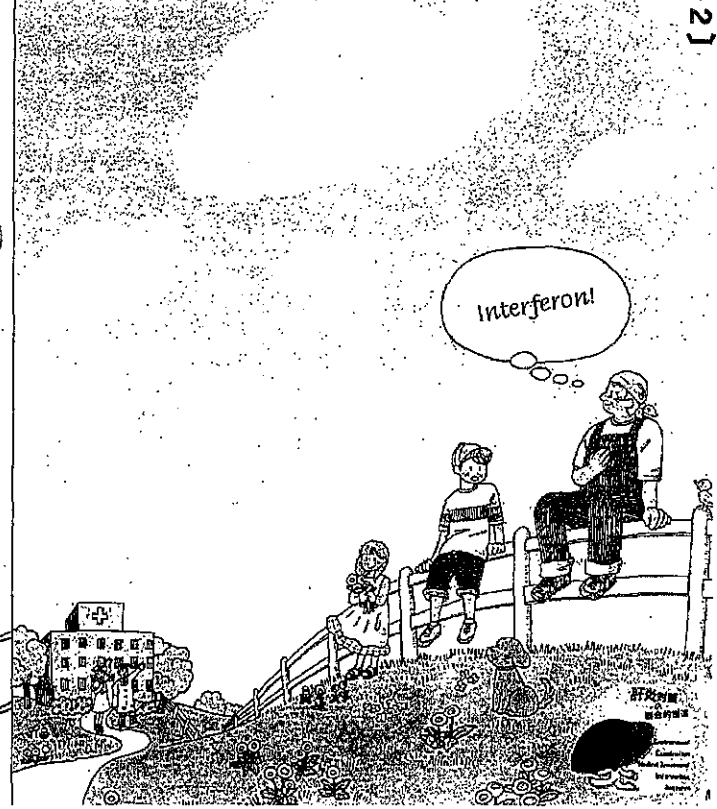
（※）厚生労働省発表資料

※このシフレットは平成21年5月現在のものです。

肝炎のお話 vol.1

わたしのインターフェロン治療体験

【別添2】



Experiences

家族の理解と協力によって 成し遂げられた治療

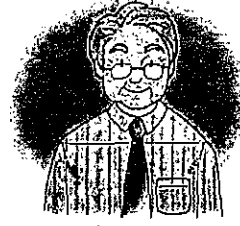


(40代・女性・主婦)

私は2007年〜2009年1月まで、インターフェロン治療をしていました。当初の予定は、48週治療だったのですが私の場合ウイルスが消えるのが少し遅かったので、72週に延長することに決めました。家族の負担、金銭面でこれ以上迷惑はかけられないと思い悩み、何度も家族会議をしました。子どもたちも家事などを手伝ってくれ、主人も「治せる確率があがるなら治療を続けたほうがいい。」と背中を押してくれました。副作用に関しては、背中・筋肉痛のような痛みが絶えず、痛み止めを服用しながら家事をこなし、だるい時は、横になり体を休めて

いました。頻尿の為夜中のトイレは、つらかったですね。必ず1回から2回起きてしまうので、睡眠不足になり昼夜逆転現象を起こしてしまいました。週1回の通院は、体調が特に悪い時も必ずその日にかかなくてはならないので、とてもつらかったのですが、絶対に治すぞという気持ちで通院していました。また、薬も長く服用していると、飲み忘れてしまいそうになったことが何度あったので、カレンダーに印をつけ薬を小分けにして、目のとどく所におきパッケージは次の薬を飲むまで捨てずにとっておくことで、飲み忘れないように工夫していました。今は月1回のウイルス検査をおこなっていますが、現在ウイルスは未検出です。長い治療ができたのは、家族の理解と協力があり出来たことだと思います。感謝しています。一人でも多くのC型肝炎の方が治るように、心からお祈り申し上げます。

思い切って治療を受けたから 今の自分がある



(60代・男性・無職)

私は数年前、他の病気で入院中、血液検査で肝臓が悪いと言われ約3ヶ月間、同時に治療を始めましたが、完治はしませんでした。退院後、肝機能の数値は一定せず不安な毎日を送っていました。平成9年頃かかりつけ医からインターフェロンの治療を勧められ1ヶ月入院治療しましたが、完治しませんでした。平成20年5月頃から、肝機能の数値が上がり始めインターフェロンの治療ができるギリギリの状態と言われ、肝炎治療の基幹病院を紹介され再度治療開始しました。最初に2週間の入院、退院後は地元の医療機関を紹介され、その病院には月1回の

ペースで1年間通院しました。副作用として注射後38℃以上の高熱と悪寒、網膜症による眼底出血、体上半身に強い薬疹が出て皮膚科の治療も受けました。この他に息切れ、味覚障害、手足のしびれ、脱毛、口内炎等医師からは副作用の強い方と言われました。強い副作用に何度も治療を中止しようかと思いましたが、現在、ウイルス陰性化になり経過観察期間に入っています。思い切って治療を受けて良かったと思っています。



【別添3】

肝臓週間に伴うウイルス肝炎に関するパネルディスカッション メインテーマ「肝炎と肝がんを撲滅するために」

日時：平成21年5月23日（土）14:00～17:30
対象：一般の方々、医療従事者（入場無料）
会場：長野県松本文化会館（松本市大字水汲69-2）
主催：財団法人 ウイルス肝炎研究財団
共催：社団法人 日本肝臓学会
後援：厚生労働省、(社)日本医師会、(社)日本薬剤師会、(社)アルコール健康医学協会、(財)日本消化器病学会

プログラム

〈総合司会〉 田中 榮司 信州大学医学部第二内科教授

■ 開会挨拶

鈴木 宏 財団法人ウイルス肝炎研究財団常務理事
正林 督章 厚生労働省健康局肝炎対策推進室長
桑島 昭文 長野県衛生部長

■ パネルディスカッション

〈座長〉 田中 榮司 信州大学医学部第二内科教授
清澤 研道 長野赤十字病院長

〈パネリスト〉

1. 肝臓の栄養と食事
垣内 雅彦 みえ消化器内科院長
 2. 脂肪性肝疾患とその治療
橋本 悦子 東京女子医科大学消化器センター教授
 3. B型肝炎の治療
鈴木 文孝 虎の門病院肝臓科医長
 4. C型肝炎の治療
熊田 卓 大垣市民病院消化器科部長
 5. 肝がんの治療
青柳 豊 新潟大学大学院医歯学総合研究科消化器内科教授
- 〈質疑応答〉

■ 閉会挨拶

田中 榮司 信州大学医学部第二内科教授